横室田中遺跡No.2

宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

２０１４.７

前橋市教育委員会
有限会社ブリックホーム
有限会社毛野考古学研究所

例　言

１．本報告書は、宅地造成工事に伴う横室田中遺跡 No.２の発掘調査報告書である。
２．調査は、事業者である有限会社ブリックホームより委託を受けた有限会社毛野考古学研究所が実施した。
３．発掘調査の要項は次の通りである。
　発掘調査場所：群馬県前橋市富士見町横室字田中 667
　遺　跡　番　号：90027
　遺　跡　略　称：25L2
　発　掘　調　査　期　間　：平成 26 年３月 17 日～平成 26 年３月 28 日
　整理・報告書作成期間　：平成 26 年４月２日～平成 26 年７月 31 日
　発掘・整理担当者：和久拓照（有限会社毛野考古学研究所）
４．本遺跡に係る遺構測量に関しては、小出拓磨（有限会社毛野考古学研究所）が担当した。
５．本書の編集は和久が行った。原稿執筆は１を福田貫之（前橋市教育委員会）、他を和久が担当した。
６．発掘調査・整理作業に関わった方々は以下の通りである。(50 音順･敬称略)
　【発掘調査】石倉稔夫・亀田浩子・竹生正明・永井述史・橋元裕児
　【整理作業】池内麻美・小野澤絹子・合田幸子・瀬尾則子・半澤利江・深谷道子・渡辺博子
７．発掘調査で出土した遺物および図面などの資料は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。
８．以下の諸機関にはご指導・ご協力を賜った。記して感謝の意を表する。(50 音順･敬称略)
　北爪機工・有限会社ブリックホーム

凡　例

１．遺構図の縮尺は挿図中にスケールを付してある。また､図中の方位北は座標北であり､座標値は世界測地系に基づいている。
２．遺物実測図の縮尺は 1/1 ～ 1/5 で掲載し､図中にスケールを付してある。なお､遺物写真は遺物実測図とほぼ同縮尺である。
　遺構の略称は、次の通りである。
３．Ｈ：住居跡　Ｄ：土坑

目　次

巻頭写真
例言・凡例・目次・図版目次・表目次

Ⅰ　調査に至る経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
Ⅱ　調査方針と経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　１　調査方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　２　調査経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
Ⅲ　標準堆積土層・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
Ⅳ　遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
Ⅴ　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

抄録・奥付

図版目次

Fig.１　調査地点位置図　・・・・・・・・・・・・・・・・1
Fig.２　基本層序　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
Fig.３　周辺の遺跡　・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
Fig.４　調査区全体図　・・・・・・・・・・・・・・・・・4
Fig.５　Ｈ-１号住居跡・・・・・・・・・・・・・・・・・6
Fig.６　Ｈ-２号住居跡 (1)　・・・・・・・・・・・・・7
Fig.７　Ｈ-２号住居跡 (2)　・・・・・・・・・・・・・8
Fig.８　Ｈ-３号住居跡　・・・・・・・・・・・・・・・9
Fig.９　Ｈ-４号住居跡･Ｄ-１号土坑　・・・・・・・・10
Fig.10　出土遺物 (1)　・・・・・・・・・・・・・・・・11
Fig.11　出土遺物 (2)　・・・・・・・・・・・・・・・・12

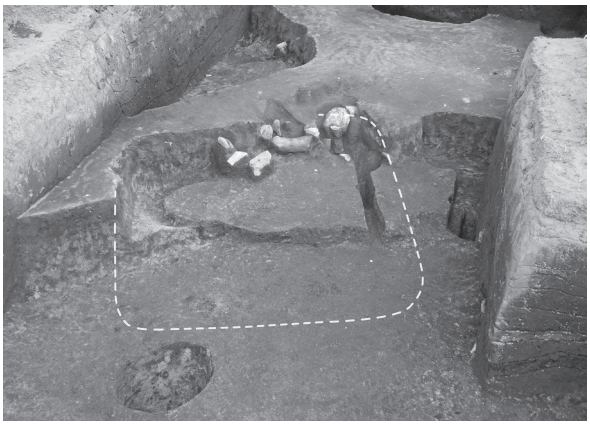
表 目 次

Tab.１　周辺の遺跡一覧表　・・・・・・・・・・・・・・3
Tab.２　遺構一覧表　・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
Tab.３　出土遺物集計表　・・・・・・・・・・・・・・・13
Tab.４　出土遺物観察表 (1)・・・・・・・・・・・・・・13
Tab.５　出土遺物観察表 (2)　・・・・・・・・・・・・・14

横室田中遺跡 No.2 住居跡群全景（1）（西から）

横室田中遺跡 No.2 住居跡群全景（2）（南東から）

巻頭写真２



H－１号住居跡 完掘状況（北西から）

H－１号住居跡 遺物出土状況（北西から）

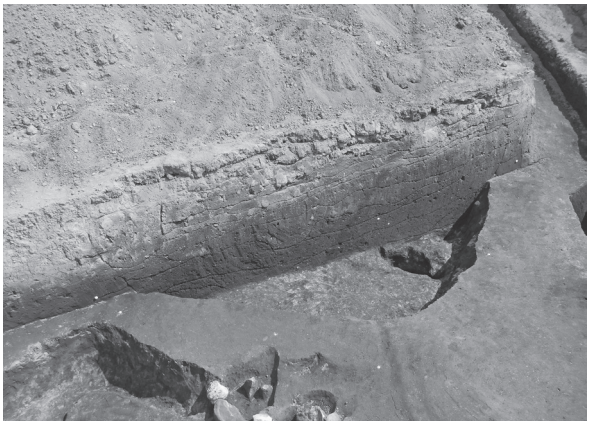
H－２号住居跡 完掘状況（北西から）

H－２号住居跡 カマド完掘状況（北西から）

H－２号住居跡 Ｐ１ 完掘状況（南東から）

H－２号住居跡 Ｐ３・Ｐ５ 完掘状況（北から）

H－２号住居跡 遺物出土状況（南から）



H－３号住居跡 完掘状況（西から）

Ｈ－３号住居跡 Ｐ１ 完掘状況（北西から）

Ｈ－３号住居跡 遺物出土状況（北西から）

Ｈ－４号住居跡 完掘状況（北から）

Ｈ－４号住居跡 遺物出土状況（1）（南東から）

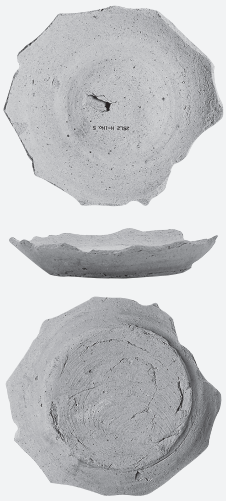
Ｈ－４号住居跡 遺物出土状況（2）（南東から）

Ｄ－１号土坑 完掘状況（北西から）

基本層序 テストピット土層断面（南西から）

H-１号住居跡

H１住 - 1
（1/4）



H１住 - 2
（1/4）

H１住 - 4
（1/3）＊

H１住 - 3
（1/2）

H１住 - 5
（1/3）＊

H１住 - 6
（1/3）＊

H１住 - 7
（1/3）＊

横室田中遺跡 No.２ 出土遺物（1）

＊印付きは図化対象外遺物

H-２号住居跡

H２住 - １
（1/4）

H２住 - ２
（1/4）

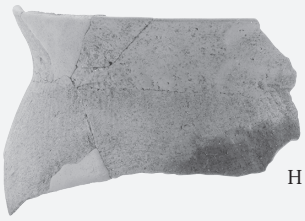
H２住 - ３
（1/4）

H２住 - ４
（1/4）

H２住 - ５
（1/4）

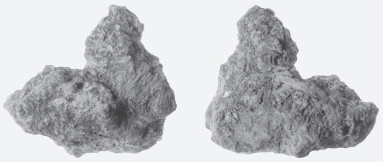
H２住 - ６
（1/4）

H２住 - ７
（1/4）


H２住 - ８
（1/4）

H２住 - ９
（1/4）

H２住 -10
（1/2）


H２住 -11
（1/2）＊

H-３号住居跡

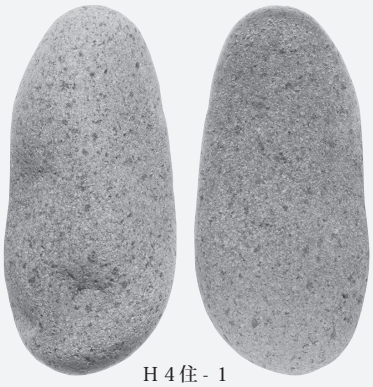
H３住 - １
（1/4）

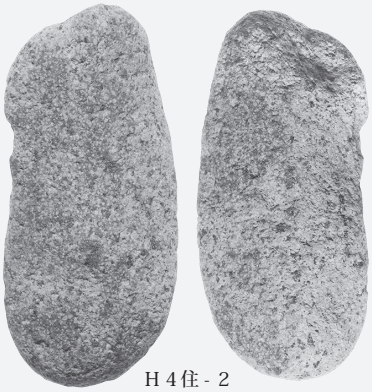
H３住 - ２
（1/4）

H３住 - ３
（1/3）

H３住 - ４
（1/3）＊

H-４号住居跡


H４住 - １
（1/3）＊


H４住 - ２
（1/3）＊

H４住 - ３
（1/3）＊

H４住 - ４
（1/2）＊

H４住 - ５
（1/2）＊

H４住 - ６
（1/2）＊

横室田中遺跡 No.２ 出土遺物（2）

＊印付きは図化対象外遺物

遺構外出土遺物

遺外 - 1
（1/3）

遺外 - 2
（1/3）

遺外 - 3
（1/3）

遺外 - 4
（1/3）

遺外 - 5
（1/3）

遺外 - 6
（1/3）

遺外 - 7
（1/3）

遺外 - 8
（1/3）

遺外 - 9
（1/3）

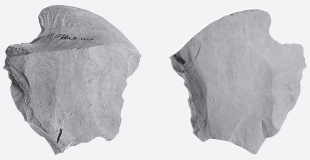
遺外 -10
（1/3）

遺外 -11
（1/3）

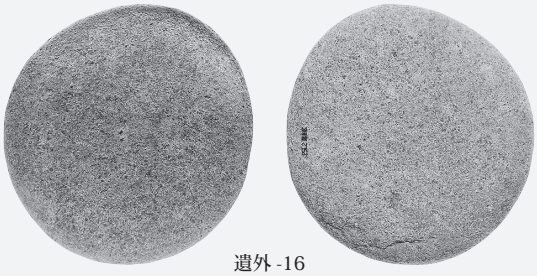
遺外 -12
（1/3）

遺外 -13
（1/3）

遺外 -14
（1/3）



遺外 -15
（1/3）



遺外 -16
（1/3）

遺外 -17
（1/5）

横室田中遺跡 No.2 出土遺物 (3)

＊印付きは図化対象外遺物

Ⅰ　調査に至る経緯

平成 25 年 11 月 21 日付けで有限会社ブリックホームより宅地造成工事に伴う試掘調査依頼書が前橋市教育委員会に提出され、同年 12 月 11 日に試掘調査を実施し、住居跡を確認した。試掘調査の結果を受け、埋蔵文化財の保護について協議を重ね、造成箇所については現状保存とし、道路部分については発掘調査を実施し記録保存の措置を執ることで合意を得た。前橋市教育委員会では既に直営による発掘調査を実施しており、直営による調査の実施が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に則り、前橋市教育委員会の作成する調査仕様書に基づく監理・指導の下、発掘調査を実施することになり、平成 26 年 3 月 7 日付けで有限会社ブリックホーム、民間調査組織である有限会社毛野考古学研究所、前橋市教育委員会との間で発掘調査実施に関する協定書が締結され、同年 3 月 17 日から現地調査が開始された。

Ⅱ　調査方針と経過

1　調査方針

本発掘調査は宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査であり、調査面積は 140 ㎡である。調査対象地は試掘調査によって遺構の有無が確認され、調査範囲の設定が行われた。調査を進めるにあたって、測量は世界測地系の公共座標に基づいて行われている。調査方法は、表土掘削→遺構確認・検出作業→遺構掘削作業→土層確

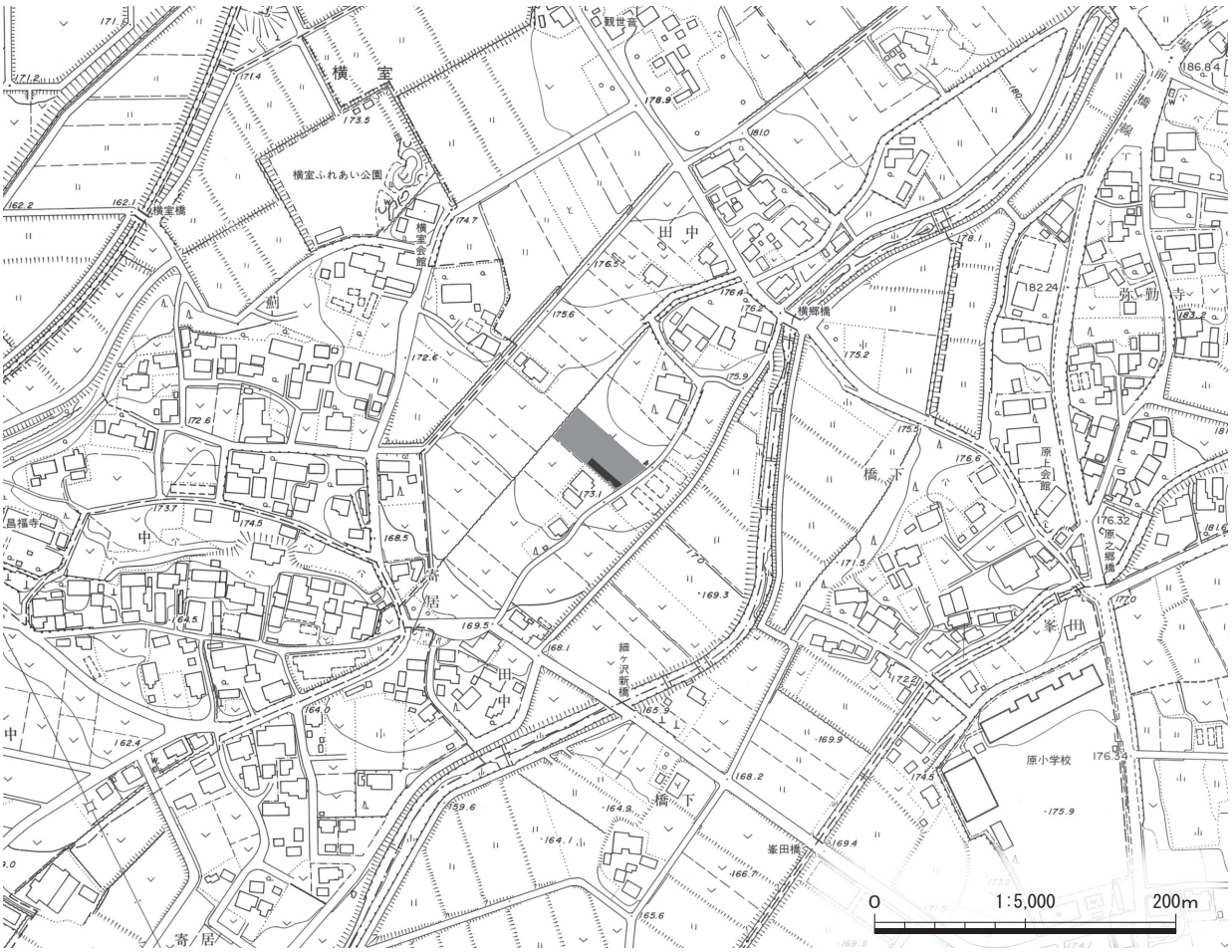


Fig. 1　調査地点位置図（前橋市役所発行『前橋市現形図 32-2』S＝1/2,500 を使用）　■：開発地　■：調査区

認→遺構完掘の順で行い、写真撮影・遺構測量は進捗状況に合わせて適宜行った。表土除去は重機による掘削で、遺構確認面（Ⅵ層中位）まで掘り下げを行った。遺構確認作業にはジョレンを、遺構掘削には移植ゴテを使用し、出土遺物は可能な限りトータルステーションを使用して３次元計測をした後に取り上げを行った。検出された遺構は、平面測量・写真撮影による記録保存を行い、遺構平面図は 1/20 を基本として作成し、トータルステーションを使用して測量している。遺構写真は 35mm 白黒フィルム、35mm カラーリバーサルフィルムを使用して撮影し、補助として 1,400 万画素のコンパクトデジタルカメラを併用した。

２　調査経過

【発掘調査】 **平成 26 年３月 17 日**：重機搬入後、表土掘削。午後、人力による遺構確認。**３月 18 日**:検出遺構の覆土掘り下げに着手。**３月 25 日**:Ｈ－１・２号住を完掘。**３月 26 日**：平面測量を実施。遺構使用面に関し主要な掘削作業が終了、調査区全景写真の撮影。**３月 27 日**：住居跡の床面やカマドにサブトレンチを設け、掘り方の調査・記録。市教委立ち会いのもと、作業終了に向けての必要事項を確認。**３月 28 日**：必要事項を実施、測量作業の残りを行い、作業の全工程を終了。

【整理作業】 **平成26年４月２日**：遺構図の修正作業・出土遺物の洗浄・注記作業を開始。**４月９日**：遺物の分類・接合作業を開始。**４月 14 日**：遺物実測作業を開始。**４月 21 日**：遺構図・遺物実測トレース・版組を開始。**５月 26 日**：報告書原稿作成を開始。**６月 30 日**:入稿・校正。**７月 24 日**:印刷・製本。**７月 31 日**：報告書刊行・納品。

表土掘削作業状況（北西から）

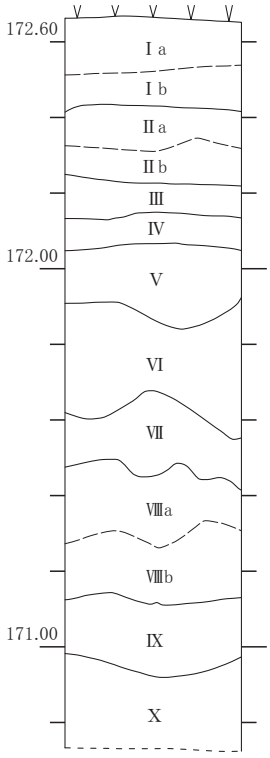


Fig.２　基本層序（Ｓ＝1/20）

Ⅲ　標準堆積土層

本遺跡は、西の法華沢川と東の細ヶ沢川にはさまれたローム台地の東端部に位置する。台地の東縁辺は、細ヶ沢川に向け比高差４ｍほどの段丘状の急傾斜となる。当地では、堆積年代を如実に示す鍵層の土は、視認できないか、相当層準付近に点在するのみである。Hr-FA ないし FP は、新しい時代の表土付近にまで広く散在している。

なお、基本層序を図化した調査区東部中央付近に限り、As-Ｂの堆積が残っている。また、As-Ｂ直下、および As-Ｂと表土の間の２～３か所で、鉄分の沈着した層が認められる。これは、集落よりのちの時代、当地周辺で土壌の攪拌を伴う耕作が行われたことを示唆しており、Hr-FA ないし FP が散在することと同根の事象と考えることもできる。

基本層序 土層説明

Ⅰa 灰褐色土　表土。As-A 由来の微細粒を少量含む。しまり、粘性ともやや弱い。
Ⅰb 灰褐色土　耕作土。Ⅰa 層に似るが、粘性普通。
Ⅱa 暗褐色土　Hr-FA または FP（径２～６mm）を少量含み、鉄分の沈着が認められる。しまりやや強く、粘性普通。
Ⅱb 暗褐色土　Ⅱa 層に似るが、鉄分の沈着がより顕著。
Ⅲ　暗褐色土　Hr-FA または FP（径２～８mm）を少量含む。しまり、粘性とも普通。南ほど層厚を増し、調査区北部で 10cm、南部で 60cm を測る。
Ⅳ　灰褐色土　As-B 相当層。局地的に散在。
Ⅴ　黒褐色土　Hr-FA または FP（径２～８mm）を中量、炭化物粒（径１～３mm）および焼土粒（径１～３mm）を微量含む。しまり、粘性とも普通。Ⅲ層同様、南ほど層厚を増す。古墳～平安時代の遺物包含層に相当。
Ⅵ　暗褐色土　微細な白色粒子を微量含む。しまり、粘性とも普通。縄文時代の遺物包含層に相当。
Ⅶ　暗黄褐色土　ローム漸移層。微細な白色粒子、および下位に As-YP（径１～３mm）を少量含む。しまり、粘性とも普通。
Ⅷa 黄褐色土　As-Ok 相当層。しまり、粘性とも普通。
Ⅷb 黄褐色土　As-SP 相当層。しまり普通、粘性やや強い。
Ⅸ　黄褐色土　As-BP 相当層。しまり、粘性ともやや強い。
Ⅹ　黄褐色土　As-MP 相当層。しまりやや強く、粘性強い。

横室田中遺跡周辺の空中写真（真上≒北 国土地理院 1974年10月撮影 S＝1/25,000）

№.	遺　跡　名	内　容	時　代
1	横室田中	集落	縄（前）、奈平
2	向吹張	散布地、集落	縄、奈平、中近
3	（尺神）	散布地	縄
4	丸山城跡	散布地、城館	縄、室町
5	（丸山）	散布地	縄、古
6	窪谷戸	集落など	縄、古、奈平、中近
7	見眼	集落など	縄、奈平、中近
8	（東上原）	散布地	縄、古
9	（上小原目）	散布地	縄、古、奈平
10	岡城跡	城館	室町
11	（下小原目）	散布地	縄
12	漆窪城跡	城館	戦国
13	（宿原）	散布地	縄、古
14	（切蓋）	散布地	縄、古
15	（三反田）	散布地	古
16	初室古墳	墳墓	古
17	庄司原古墳	墳墓	古
18	森山（引田）城跡	城館	中世
19	森山古墳	墳墓	古
20	（田中、道上）	集落	古
21	道上古墳	墳墓	古
22	（髙橋）	散布地	縄、古
23	由森	集落	縄（前）
24	田島白川	集落	古
25	田島城跡	城館	中世
26	原之郷久保田	集落	古、奈平
27	（十二）	散布地	縄
28	（鉄砲林）	散布地	古
29	鎌塚古墳	墳墓	古
30	（諏訪）	散布地	縄
31	時沢中谷	集落	奈平
32	小沢的場	集落など	古、奈平、中近
33	原之郷鰻沢	集落	平安
34	（鎌塚）	散布地	古
35	横室古墳	墳墓	古
36	寄居	散布地、館跡	縄、中近
37	陣場古墳	墳墓	古
38	金山城跡	城館	室町
39	（庄司原）	散布地、古墳群	縄、弥、古
40	（陣場）	散布地	縄（前～後）
41	田中田	集落など	縄、弥、古
42	（田中田）	散布地	古
43	荒井古墳	墳墓	古
44	岩之下	集落など	縄、古、奈平
45	（東沢口）	散布地	縄、古
46	（山之後）	散布地	弥、古、奈平
47	九十九山古墳	墳墓	古
48	（善養寺）	散布地	弥、古、奈平
49	旭久保B	集落など	縄、古、中近
50	旭久保C	集落など	縄（中）、古、奈平、中近
51	旭久保	集落など	縄、古、奈平
52	引切塚	集落	弥、古

Tab. 1　周辺の遺跡一覧表

Fig. 3　周辺の遺跡（国土地理院発行 地形図『渋川』S＝1/25,000を使用）

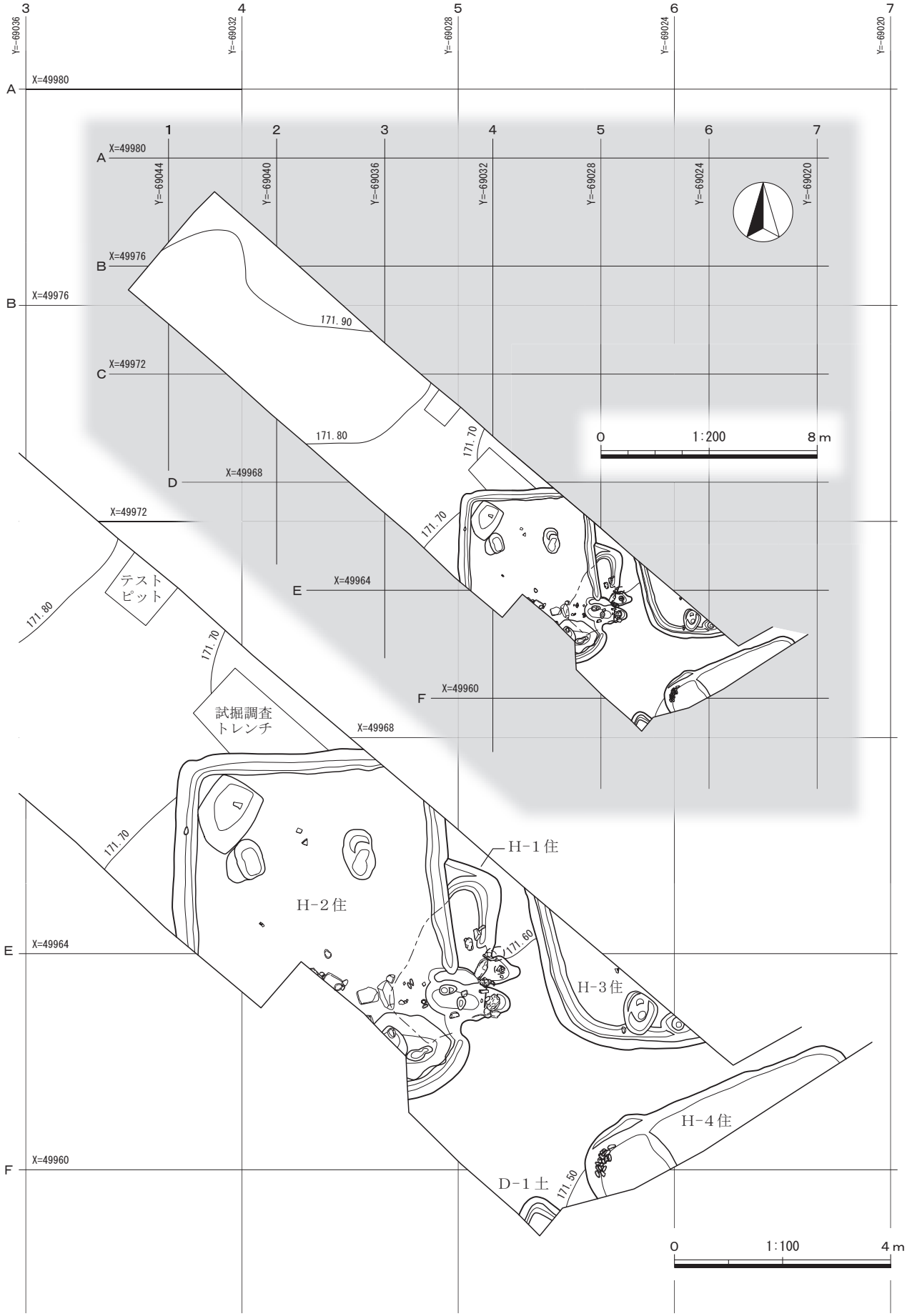

3
4
5
6
7
Y=-69036
Y=-69032
Y=-69028
Y=-69024
Y=-69020
A
X=49980
B
X=49976
C
X=49972
D
X=49968
E
X=49964
F
X=49960
1
2
Y=-69044
Y=-69040
171.90
171.80
171.70
0
1:200
8m
テスト
ピット
試掘調査
トレンチ
H-1住
H-2住
H-3住
H-4住
D-1土
171.60
171.50
0
1:100
4m

Fig. 4　調査区全体図

Ⅳ　遺構と遺物

今回の調査により、竪穴住居跡４軒および土坑１基が検出された。各遺構の計測値､出土遺物などの概要については､下の「遺構一覧表」(Tab.２）にまとめてある。

竪穴住居跡のうち、カマドが検出されたのはＨ－１号とＨ－２号の２軒で、両者は重複している。Ｈ－１号が新しく、Ｈ－２号の覆土を掘り込んで構築されている。

作業状況（北から）

Ｈ－１号は、１辺２ｍあまりとみられる小型の竪穴住居跡である。カマドは崩落・損壊が顕著で、燃焼面や灰面といった下部構造の一部が認められるに過ぎず、構築材とおぼしき礫が床面直上やその付近の覆土中に散在している。床はＨ－２号との重複範囲では軟弱な貼り床が施されていたとみられ、面的な把握が困難であった。一方、範囲外のカマド周辺は、直床に近い状態で、きわめて堅緻である。

Ｈ－２号は、今回の調査において検出範囲の最も広い住居跡である。カマド構築材らしき礫が床面直上付近に散在する点はＨ－１号とおおむね共通するが、燃焼面や灰面のほか、カマド右袖部が損壊を免れ、原状をよく残していた。柱穴の平面形が双円形に近似する点、底面のくぼみが２つある点などから、同住居跡では少なくとも１度、柱の据え替えを伴う改築が行われたものと推測される。カマド右脇に位置する貯蔵穴（Ｐ５）は、柱穴（Ｐ３）を埋置した直後、同じ掘り方の穴を利用して設けられている。掘り方は、床の縁辺部において深くなり、隅付近の一部ではＰ４のような床下土坑を伴う。また、Ｈ－１号とは対照的に、顕著な貼り床が施されている。

Ｈ－３・４号住は、半分以上の範囲が調査区外に位置しており、規模・形態の詳細を明らかにしえない。いずれも、顕著な貼り床が施されている。

このほか、本遺跡の各住居跡に通じる特徴については、Ⅴ章にてその概要を記す。

唯一検出された土坑であるＤ－１号は、調査区壁面至近に位置しているため、部分的な検出にとどまった。平面おおむね方形とみられ、底面縁辺が周溝状に浅くくぼむ形状であった。壁溝を伴う竪穴住居跡の可能性も否定しきれないが、覆土中の含有物が他の住居跡と比べて種類と量に乏しく、また床に相当する明瞭な硬化面が認められなかった点を加味し、土坑として扱うこととした。

Tab.２　遺構一覧表

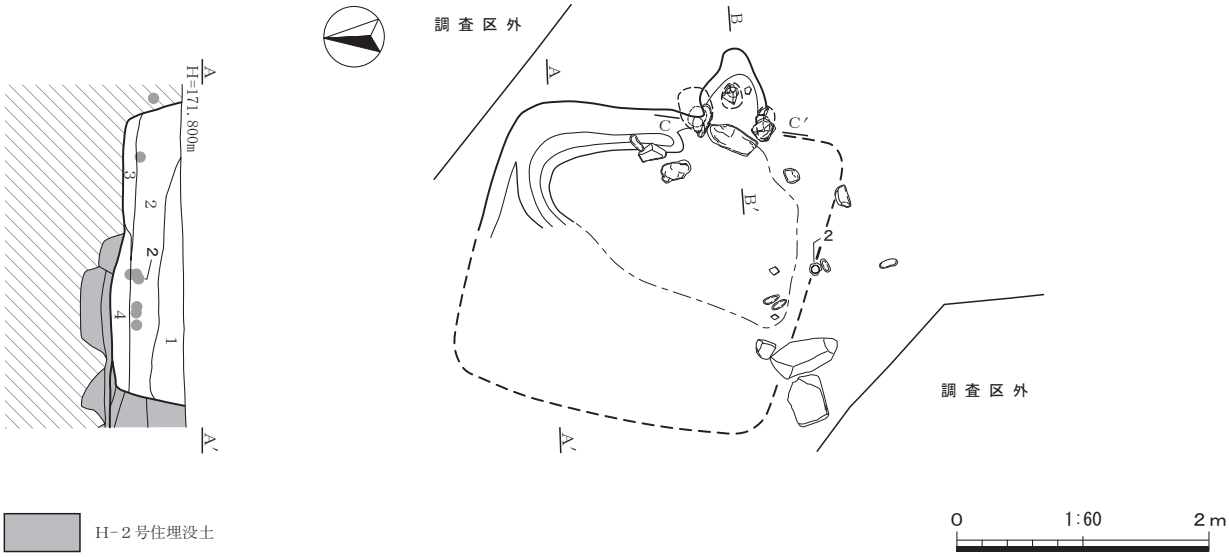
住居跡

遺構名	規 模（m）			方位	炉･カマド（m）		貯蔵穴（m）			出　土　遺　物	帰属時期	備　考
	長軸	短軸	深さ		全長	幅	長軸	短軸	深さ			
H-1	—	—	0.43	N-100°-E	0.84	0.52	—	—	—	土師器・須恵器・礫・鷹編石・鉄製品	８ｃ	
H-2	(6.48)	5.10	0.64	N-90°-E	1.60	1.58	1.14	0.94	0.38	土師器・須恵器・礫・鷹編石・刀子	７ｃ	
H-3	—	—	0.86	N-80°-E	—	—	—	—	—	土師器・須恵器・礫・鷹編石	８ｃ	
H-4	(5.26)		0.93	N-67°-E	—	—	—	—	—	土師器・粘土塊・礫・鷹編石	不明	

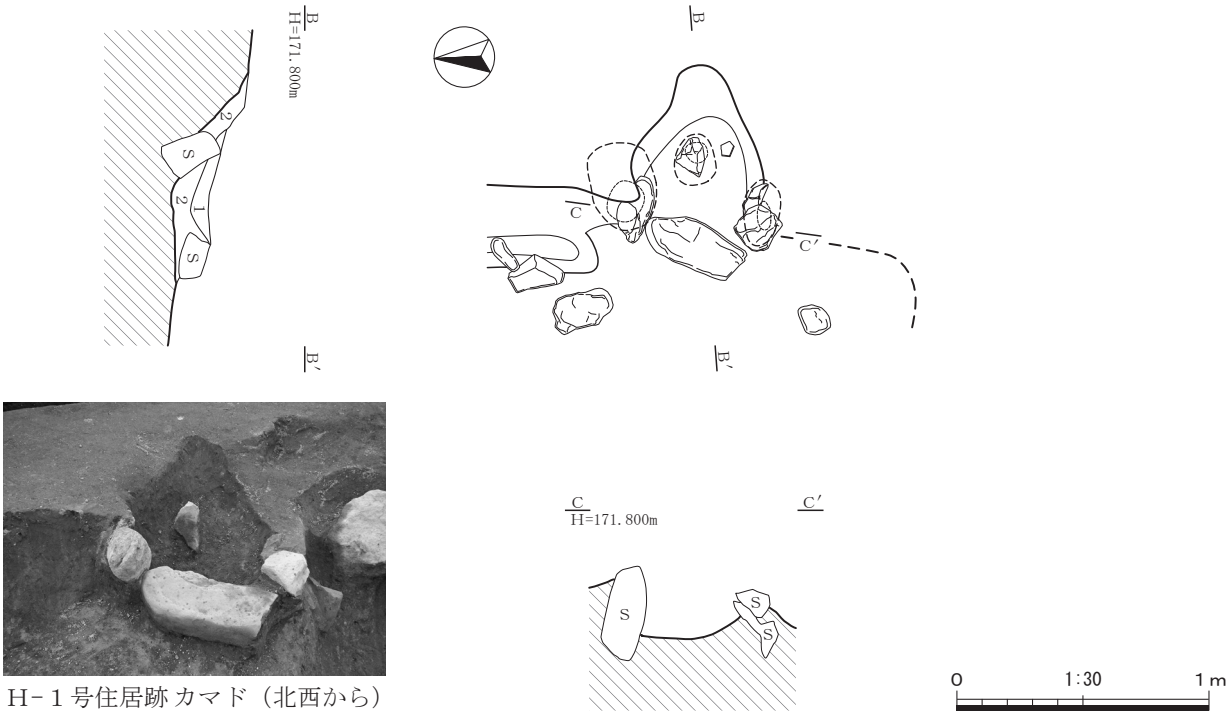
土坑

遺構名	規 模（m）			平面形状	長軸方位	出　土　遺　物	帰属時期	備　考
	長軸	短軸	深さ					
D-1	—	—	—	隅丸方形	—	土師器小片	不明	住居跡の一部か

H－１号住居跡



カマド



H－１号住居跡 カマド（北西から）

H－１号住居跡 土層説明

1　黒褐色土　Hr-FP（径２～６㎜）を少量、ローム粒（径２～６㎜）、炭化物粒（径２～６㎜）、および焼土粒（径２～５㎜）をそれぞれ微量含む。

2　暗褐色土　ローム粒（径２～10㎜）を少量、ロームブロック（径10～30㎜）、Hr-FP（径２～６㎜）、炭化物粒（径２～６㎜）、および焼土粒（径２～５㎜）をそれぞれ微量含む。

3　暗褐色土　ロームブロック（径10～40㎜）、ローム粒（径２～10㎜）、および炭化物粒（径２～６㎜）をそれぞれ中量、Hr-FP（径２～６㎜）および焼土粒（径２～５㎜）を微量含む。

4　暗褐色土　ロームブロック（径10～50㎜）、ローム粒（径２～10㎜）、および炭化物粒（径２～６㎜）をそれぞれ中量、Hr-FP（径２～６㎜）および焼土粒（径２～５㎜）を微量含む。粘性やや強い。中位に炭化物が集中する箇所あり。

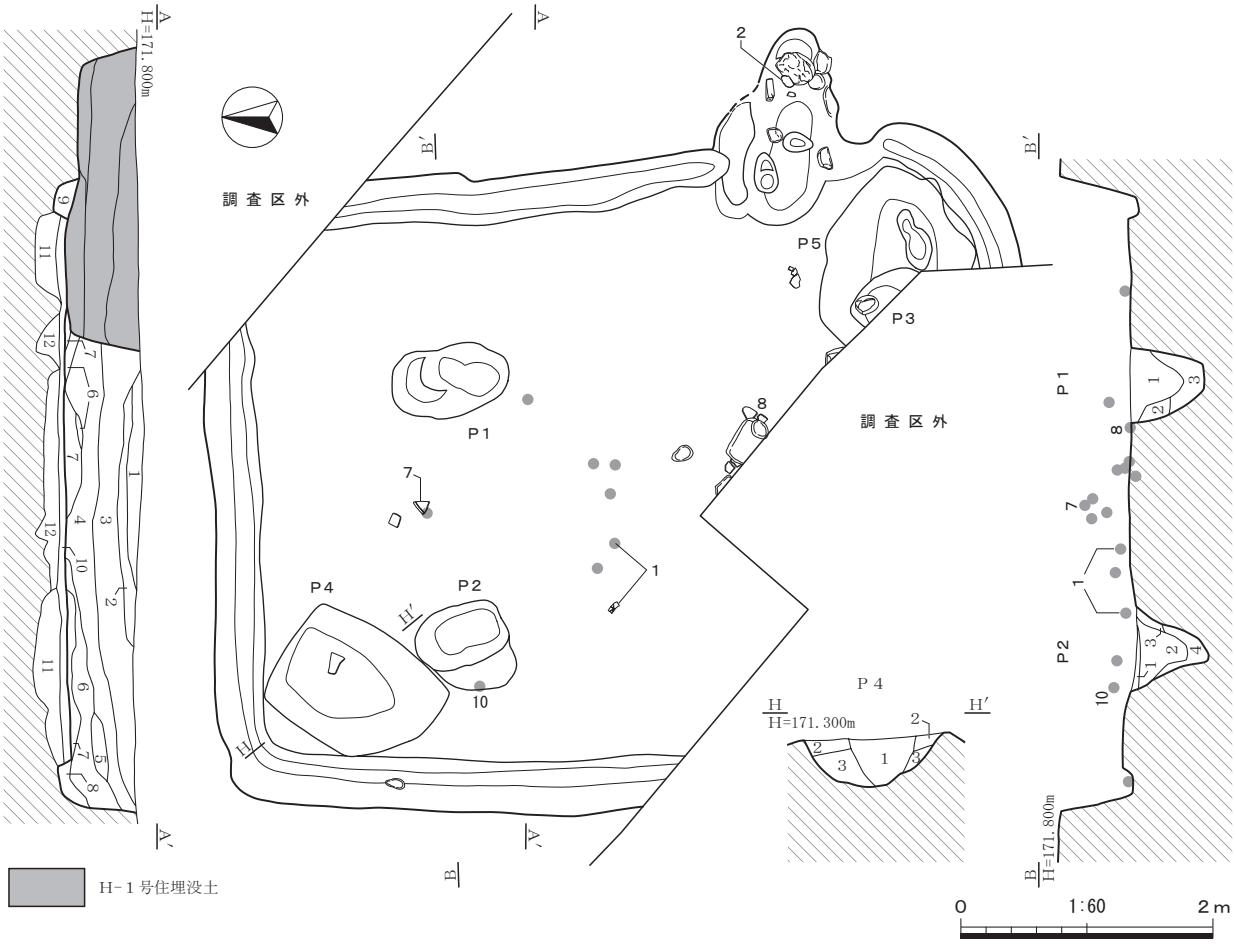
H－１号住居跡 カマド土層説明

1　暗褐色土　ロームブロック（径10～20㎜）、ローム粒（径２～10㎜）、炭化物、および焼土をそれぞれ少量、粘土を微量含む。

2　暗褐色土　粘土および焼土を中量、ロームブロック（径10～20㎜）、ローム粒（径２～10㎜）、および炭化物をそれぞれ少量含む。粘性やや強い。

Fig. 5　H－１号住居跡

H－２号住居跡



H－２号住居跡 土層説明

1 黒褐色土　Hr-FP（径２～６㎜）を中量、ローム粒（径２～６㎜）、炭化物粒（径２～６㎜）、および焼土粒（径２～５㎜）を微量含む。

2 暗褐色土　粘土を中量、Hr-FP（径２～６㎜）を少量、ローム粒（径２～６㎜）、炭化物粒（径２～６㎜）、および焼土粒（径２～５㎜）を微量含む。

3 暗褐色土　ローム粒（径２～10㎜）およびHr-FP（径２～６㎜）を少量、炭化物粒（径２～６㎜）および焼土粒（径２～５㎜）を微量含む。

4 暗褐色土　ローム粒（径２～10㎜）を少量、Hr-FP（径２～６㎜）、炭化物粒（径２～６㎜）および焼土粒（径２～５㎜）を微量含む。

5 暗褐色土　粘土を多量に、ローム粒（径２～10㎜）、Hr-FP（径２～６㎜）、炭化物粒（径２～６㎜）、および焼土粒（径２～５㎜）を微量含む。

6 暗褐色土　焼土を多量に、炭化物粒（径２～６㎜）を中量、粘土を少量、ローム粒（径２～10㎜）を微量、Hr-FP（径２～６㎜）をごく微量含む。

7 暗褐色土　粘土主体、ローム粒（径２～10㎜）および炭化物粒（径２～６㎜）を微量含む。

8 暗褐色土　ロームブロック（径10～40㎜）を多量に、ローム粒（径２～８㎜）を中量、焼土粒（径２～８㎜）および炭化物粒（径２～６㎜）を少量含む。しまり、粘性ともやや強い。

9 暗褐色土　ロームブロック（径10～50㎜）を多量に、ローム粒（径２～10㎜）および炭化物粒（径２～６㎜）を中量含む。粘性やや強い。

10 暗褐色土　ロームブロック（径10～50㎜）を多量に、ローム粒（径２～８㎜）を中量、焼土粒（径２～８㎜）を微量含む。しまり、粘性とも強い。H－２号住の床土。

11 暗褐色土　ロームブロック（径10～50㎜）およびローム粒（径２～８㎜）を中量、焼土粒（径２～８㎜）を微量含む。しまりやや強く、粘性強い。H－２号住の床土。

12 暗褐色土　ロームブロック（径10～50㎜）を主体とし、ローム粒（径２～８㎜）を中量、焼土粒（径２～８㎜）を微量含む。しまり、粘性とも強い。H－２号住の床土。

H－２号住居跡 P１ 土層説明

1 暗褐色土　ローム粒（径２～10㎜）および炭化物粒（径２～６㎜）を少量、Hr-FP（径２～４㎜）および焼土粒（径２～４㎜）をごく微量含む。

2 暗褐色土　ロームブロック（径10～30㎜）およびローム粒（径２～10㎜）を少量、炭化物粒（径２～４㎜）を微量、Hr-FP（径２～４㎜）をごく微量含む。

3 暗褐色土　ロームブロック（径10～40㎜）を中量、ローム粒（径２～10㎜）を少量、炭化物粒（径２～４㎜）を微量含む。粘性やや強い。

H－２号住居跡 P２ 土層説明

1 暗褐色土　ローム粒（径２～10㎜）および炭化物粒（径２～６㎜）を少量、ロームブロック（径10～20㎜）および焼土を微量含む。

2 暗褐色土　ローム粒（径２～10㎜）を中量、炭化物粒（径２～６㎜）を少量、焼土を微量含む。

3 暗褐色土　ロームブロック（径10～20㎜）およびローム粒（径２～10㎜）を少量、炭化物粒（径２～６㎜）を微量含む。

4 暗褐色土　ロームブロック（径10～20㎜）およびローム粒（径２～10㎜）を中量、炭化物粒（径２～６㎜）を少量含む。

H－２号住居跡 P４ 土層説明

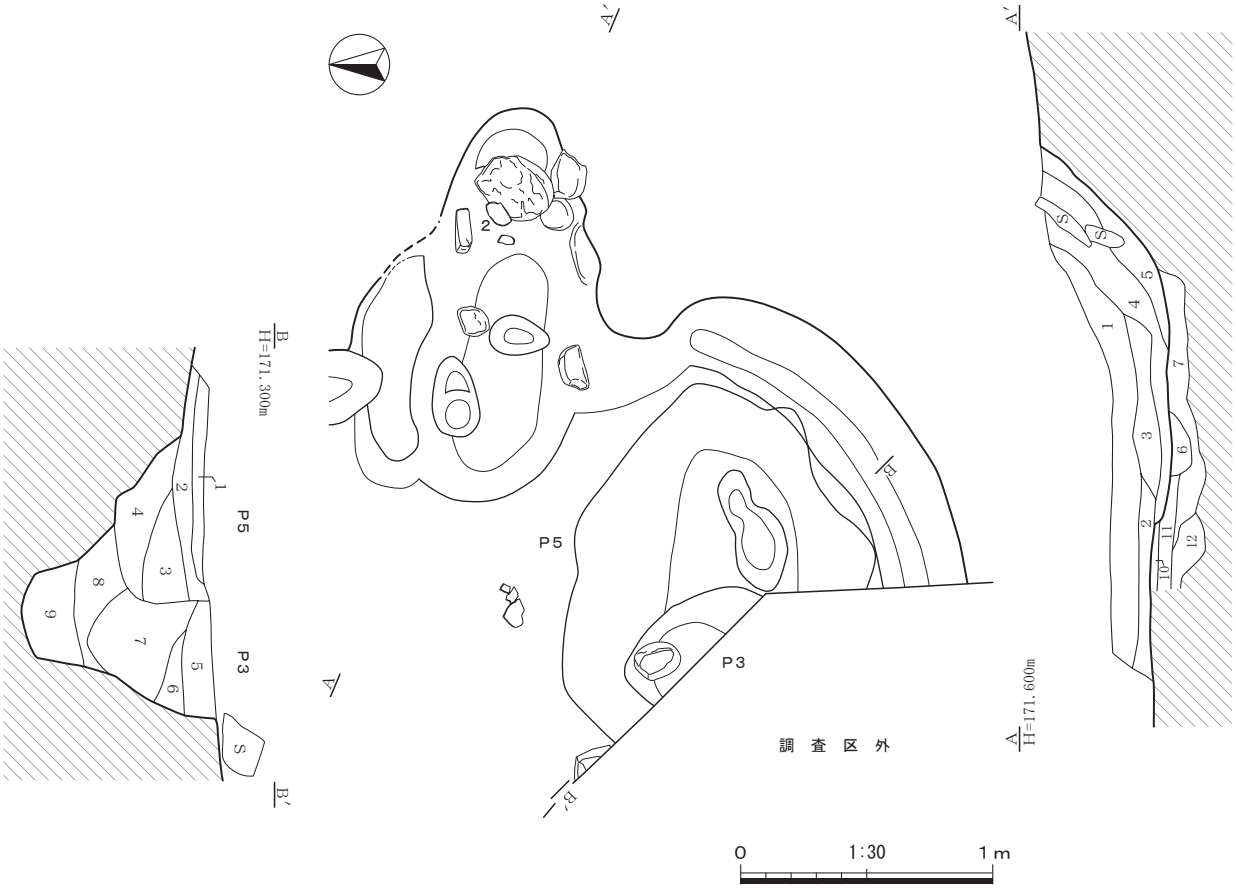
1 暗黄褐色土　ローム粒（径２～10㎜）を多量に、ロームブロック（径10～40㎜）を中量、炭化物粒（径２～６㎜）および焼土粒（径２～６㎜）を微量含む。

2 暗黄褐色土　ロームブロック（径10～50㎜）主体、ローム粒（径２～10㎜）を中量、炭化物粒（径２～６㎜）および焼土粒（径２～６㎜）を微量含む。

3 暗黄褐色土　ロームブロック（径10～50㎜）を多量に、ローム粒（径２～10㎜）を中量、炭化物粒（径２～６㎜）および焼土粒（径２～６㎜）を微量含む。

Fig.６　H－２号住居跡（1）

H－２号住居跡 カマド・P３・P５



H－２号住居跡 カマド 土層説明

1　暗褐色土　ロームブロック（径 10 ～ 40㎜）およびローム粒（径２～ 10㎜）を中量、焼土粒（径２～６㎜）を少量、炭化物粒（径２～６㎜）を微量含む。しまり、粘性ともやや強い。

2　暗褐色土　ローム粒（径２～ 10㎜）を中量、焼土粒（径２～６㎜）および炭化物粒（径２～６㎜）を微量含む。粘性やや強い。

3　暗褐色土　粘土を多量に、ローム粒（径２～ 10㎜）および焼土を中量、炭化物粒（径２～６㎜）を少量含む。粘性やや強い。

4　暗褐色土　炭化物を中量、ローム粒（径２～ 10㎜）、粘土、および焼土をそれぞれ少量含む。しまり普通、粘性やや強い。

5　暗褐色土　ロームブロック（径 10 ～ 20㎜）を中量、ローム粒（径２～ 10㎜）、粘土、炭化物、および焼土を少量含む。粘性やや強い。

6　暗褐色土　ロームブロック（径 10 ～ 50㎜）およびローム粒（径２～８㎜）を中量、焼土粒（径２～８㎜）および炭化物粒（径２～６㎜）を少量含む。粘性やや強い。石の抜き取り痕。

7　暗褐色土　ロームブロック（径 10 ～ 50㎜）および焼土を中量、ローム粒（径２～８㎜）および炭化物を少量含む。しまり、粘性ともやや強い。

10 ～ 12　H－２号住の土層説明を参照。

H－２号住居跡 P３・P５ 土層説明

1　暗黄褐色土　ロームブロック（径 10 ～ 50㎜）およびローム粒（径２～ 10㎜）を中量、炭化物粒（径２～６㎜）および焼土粒（径２～６㎜）を少量含む。しまり、粘性ともやや強い。

2　暗黄褐色土　ロームブロック（径 10 ～ 50㎜）およびローム粒（径２～ 10㎜）を中量、炭化物粒（径２～６㎜）、焼土粒（径２～６㎜）、および粘土をそれぞれ少量含む。しまり、粘性ともやや強い。

3　暗黄褐色土　粘土を多量に、ロームブロック（径 10 ～ 50㎜）を中量、ローム粒（径２～ 10㎜）、焼土粒（径２～ 10㎜）、および炭化物粒（径２～６㎜）をそれぞれ少量含む。しまり普通、粘性やや強い。

4　暗褐色土　ロームブロック（径 10 ～ 50㎜）を多量に、炭化物粒（径２～６㎜）およびローム粒（径２～ 10㎜）を少量、焼土粒（径２～ 10㎜）および粘土を微量含む。しまり普通、粘性やや強い。

5　暗褐色土　ローム粒（径２～ 10㎜）を少量、焼土粒（径２～６㎜）を微量、ロームブロック（径 10 ～ 50㎜）、炭化物粒（径２～６㎜）、および粘土をそれぞれごく微量含む。しまり普通、粘性やや強い。

6　暗褐色土　ローム粒（径２～ 10㎜）を少量、炭化物粒（径２～６㎜）および粘土を微量、ロームブロック（径 10 ～ 50㎜）および焼土粒（径２～６㎜）をごく微量含む。しまり普通、粘性やや強い。

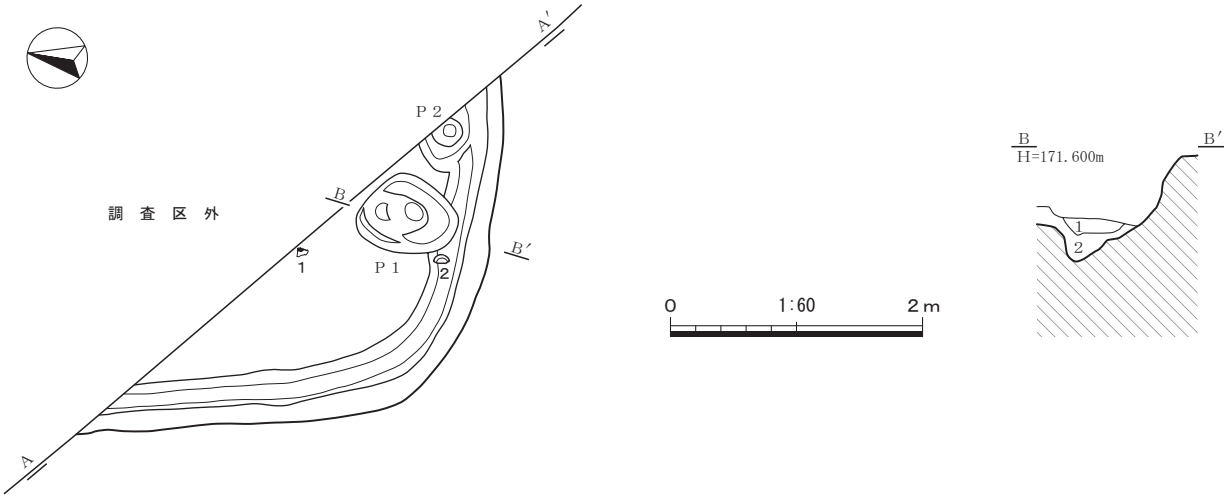
7　暗褐色土　ローム粒（径２～ 10㎜）および粘土を中量、ロームブロック（径 10 ～ 50㎜）を少量、炭化物粒（径２～６㎜）および焼土粒（径２～６㎜）を微量含む。しまり普通、粘性やや強い。

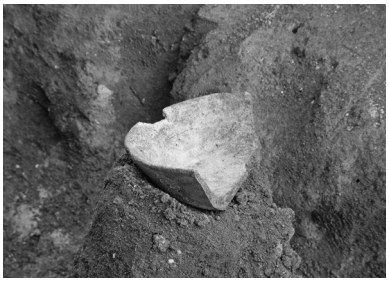
8　暗褐色土　ローム粒（径２～ 10㎜）および粘土を中量、ロームブロック、焼土粒（径２～ 10㎜）をごく微量含む。しまり普通、粘 性やや強い。

9　暗褐色土　ローム粒（径２～ 10㎜）および粘土を中量、ロームブロック（径 10 ～ 50㎜）および焼土粒（径２～ 10㎜）を少量、炭化物粒（径２～６㎜）を微量含む。しまり普通、粘性やや強い。

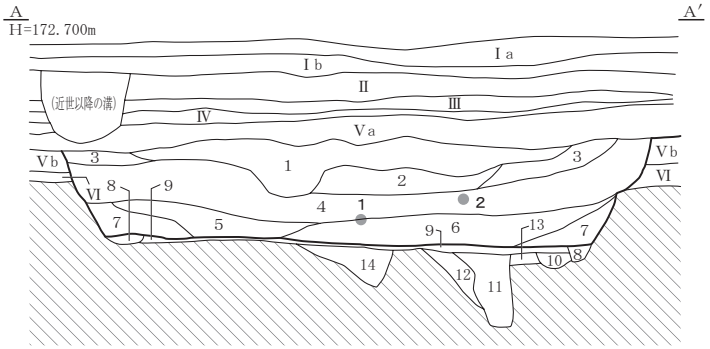
Fig. 7　H－２号住居跡 (2)

Ｈ－３号住居跡





Ｈ－３号住居跡遺物出土状況（北西から）



Ｈ－３号住居跡 土層説明

1 暗褐色土　ローム土を中量、ロームブロック（径 10 ～ 20㎜）および Hr-FP（径２～８㎜）を微量含む。

2 暗褐色土　ローム粒（径２～ 10㎜）および Hr-FP（径２～８㎜）を少量、焼土粒（径２～ 10㎜）および炭化物粒（径２～６㎜）を微量、ロームブロック（径 10 ～ 20㎜）をごく微量含む。

3 暗褐色土　ローム粒（径２～ 10㎜）を少量、焼土粒（径２～ 10㎜）、Hr-FP（径２～８㎜）、および炭化物粒（径２～６㎜）をそれぞれ微量、ロームブロック（径 10 ～ 40㎜）をごく微量含む。

4 暗褐色土　ローム粒（径２～ 10㎜）および Hr-FP（径２～８㎜）を微量含む。

5 暗褐色土　ロームブロック（径 10 ～ 20㎜）、ローム粒（径２～８㎜）、および Hr-FP（径２～６㎜）を微量、焼土粒（径２～８㎜）および炭化物粒（径２～６㎜）をごく微量含む。

6 暗褐色土　焼土粒（径２～８㎜）を少量、ロームブロック（径 10 ～ 20㎜）、ローム粒（径２～８㎜）、および Hr-FP（径２～６㎜）を微量含む。

7 暗褐色土　ロームブロック（径 10 ～ 20㎜）、ローム粒（径２～８㎜）、および焼土粒（径２～８㎜）を微量、Hr-FP（径２～６㎜）および炭化物粒（径２～６㎜）をごく微量含む。

8 暗褐色土　ロームブロック（径 10 ～ 20㎜）およびローム粒（径２～８㎜）を少量、焼土粒（径２～８㎜）を微量、Hr-FP（径２～６㎜）および炭化物粒（径２～６㎜）をごく微量含む。粘性やや強い。

9 暗褐色土　ロームブロック（径 10 ～ 50㎜）を多量に、ローム粒（径２～８㎜）を少量、焼土粒（径２～８㎜）を微量含む。しまり、粘性とも強い。Ｈ－３号住の床土。

10 暗褐色土　ロームブロック（径 10 ～ 40㎜）およびローム粒（径２～８㎜）を中量、焼土粒（径２～８㎜）を微量含む。しまり、粘性ともやや強い。

11 暗褐色土　ロームブロック（径 10 ～ 40㎜）およびローム粒（径２～８㎜）を中量、焼土粒（径２～８㎜）を少量、炭化物粒（径２～６㎜）を微量含む。しまり普通、粘性やや強い。

12 暗褐色土　ロームブロック（径 10 ～ 40㎜）、ローム粒（径２～８㎜）、焼土粒（径２～８㎜）、および炭化物粒（径２～６㎜）を少量含む。

13 暗褐色土　ローム粒（径２～８㎜）を多量に、ロームブロック（径 10 ～ 40㎜）を中量、焼土粒（径２～８㎜）および炭化物粒（径２～６㎜）を少量含む。粘性やや強い。

14 暗褐色土　ロームブロック（径 10 ～ 40㎜）を多量に、ローム粒（径２～８㎜）を中量、焼土粒（径２～８㎜）および炭化物粒（径２～６㎜）を少量含む。しまり、粘性ともやや強い。

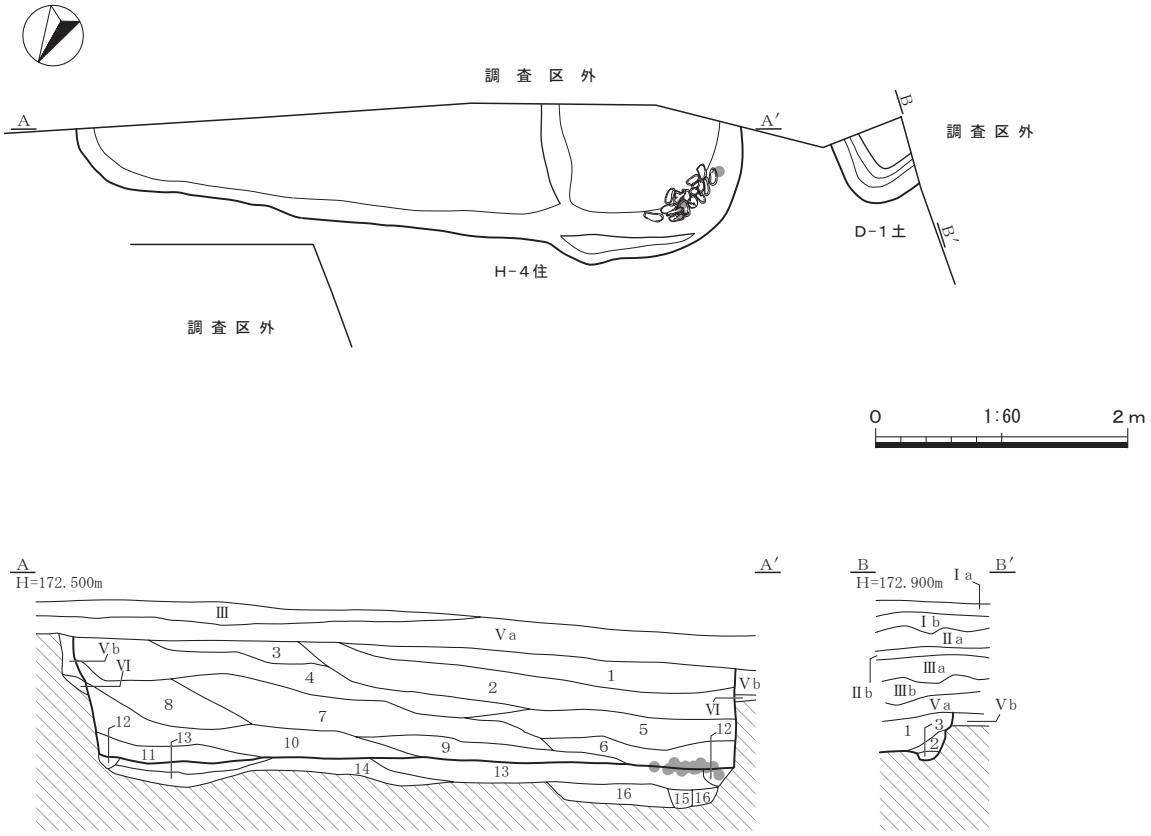
Ｈ－３号住居跡 Ｐ１ 土層説明

1 暗褐色土　ローム粒（径２～ 10㎜）を中量、ロームブロック（径 10 ～ 20㎜）および炭化物粒（径２～６㎜）を少量含む。

2 暗褐色土　ロームブロック（径 10 ～ 20㎜）およびローム粒（径２～ 10㎜）を中量、炭化物粒（径２～６㎜）を少量含む。

Fig. 8　Ｈ－３号住居跡

H－４号住居跡・D－１号土坑



H－４号住居跡 土層説明

1 暗褐色土　ローム粒（径２～10㎜）およびHr-FP（径２～８㎜）を少量、焼土粒（径２～10㎜）および炭化物粒（径２～６㎜）を微量含む。

2 暗褐色土　ローム粒（径２～10㎜）を少量、焼土粒（径２～10㎜）、Hr-FP（径２～８㎜）、および炭化物粒（径２～６㎜）を微量含む。

3 暗褐色土　ローム粒（径２～10㎜）およびHr-FP（径２～８㎜）を微量、ロームブロック（径10～20㎜）、焼土粒（径２～10㎜）、および炭化物粒（径２～６㎜）をごく微量含む。

4 暗褐色土　ローム土を中量、ロームブロック（径10～20㎜）およびHr-FP（径２～８㎜）を微量、焼土粒（径２～10㎜）および炭化物粒（径２～６㎜）をごく微量含む。

5 暗褐色土　ロームブロック（径10～20㎜）およびローム土を中量、ローム粒（径２～10㎜）を少量、Hr-FP（径２～８㎜）および炭化物粒（径２～６㎜）を微量含む。

6 暗褐色土　ローム土を少量、ローム粒（径２～10㎜）およびHr-FP（径２～８㎜）を微量、焼土粒（径２～10㎜）および炭化物粒（径２～６㎜）をごく微量含む。

7 暗褐色土　ローム粒（径２～10㎜）およびHr-FP（径２～８㎜）を微量、焼土粒（径２～10㎜）および炭化物粒（径２～６㎜）をごく微量含む。

8 暗褐色土　ローム粒（径２～10㎜）およびHr-FP（径２～８㎜）を微量、焼土粒（径２～10㎜）および炭化物粒（径２～６㎜）をごく微量含む。

9 暗褐色土　ロームブロック（径10～20㎜）、ローム粒（径２～10㎜）、およびHr-FP（径２～６㎜）を微量、焼土粒（径２～10㎜）および炭化物粒（径２～４㎜）をごく微量含む。

10 暗褐色土　ローム粒（径２～10㎜）を少量、Hr-FP（径２～６㎜）を微量、ロームブロック（径10～20㎜）、焼土粒（径２～10㎜）、および炭化物粒（径２～４㎜）をごく微量含む。

11 暗褐色土　炭化物粒（径２～４㎜）を少量、ローム粒（径２～10㎜）、焼土粒（径２～10㎜）、およびHr-FP（径２～６㎜）をそれぞれ微量、ロームブロック（径10～20㎜）をごく微量含む。

12 暗褐色土　ロームブロック（径10～20㎜）およびローム粒（径２～10㎜）を中量、焼土粒（径２～10㎜）および炭化物粒（径２～４㎜）を微量、Hr-FP（径２～６㎜）をごく微量含む。粘性やや強い。

13 暗褐色土　ロームブロック（径10～20㎜）を多量に、ローム粒（径２～10㎜）を中量、焼土粒（径２～10㎜）および炭化物粒（径２～４㎜）を少量、Hr-FP（径２～６㎜）をごく微量含む。しまり、粘性とも強い。H－４号住の床土。

14 暗褐色土　ロームブロック（径10～20㎜）およびローム粒（径２～10㎜）を中量、焼土粒（径２～10㎜）および炭化物粒（径２～４㎜）を少量、Hr-FP（径２～６㎜）をごく微量含む。しまり、粘性とも強い。H－４号住の床土。

15 暗褐色土　ロームブロック（径10～20㎜）主体、ローム粒（径２～10㎜）を中量、焼土粒（径２～10㎜）および炭化物粒（径２～４㎜）を微量、Hr-FP（径２～６㎜）をごく微量含む。しまり、粘性ともやや強い。

16 暗褐色土　ロームブロック（径10～20㎜）主体、ローム粒（径２～10㎜）を中量、焼土粒（径２～10㎜）および炭化物粒（径２～４㎜）を微量含む。しまり、粘性とも強い。H－４号住の床土。

D－１号土坑 土層説明

1 暗褐色土　ローム粒（径２～10㎜）およびHr-FP（径２～８㎜）を少量、焼土粒（径２～10㎜）および炭化物粒（径２～６㎜）を微量含む。

2 暗褐色土　ローム粒（径２～10㎜）を少量、焼土粒（径２～10㎜）、Hr-FP（径２～８㎜）、および炭化物粒（径２～６㎜）をそれぞれ微量含む。

3 暗褐色土　ローム粒（径２～10㎜）、ロームブロック（径10～20㎜）、焼土粒（径２～10㎜）、および炭化物粒（径２～６㎜）を微量含む。

Fig. 9　H－４号住居跡・D－１号土坑

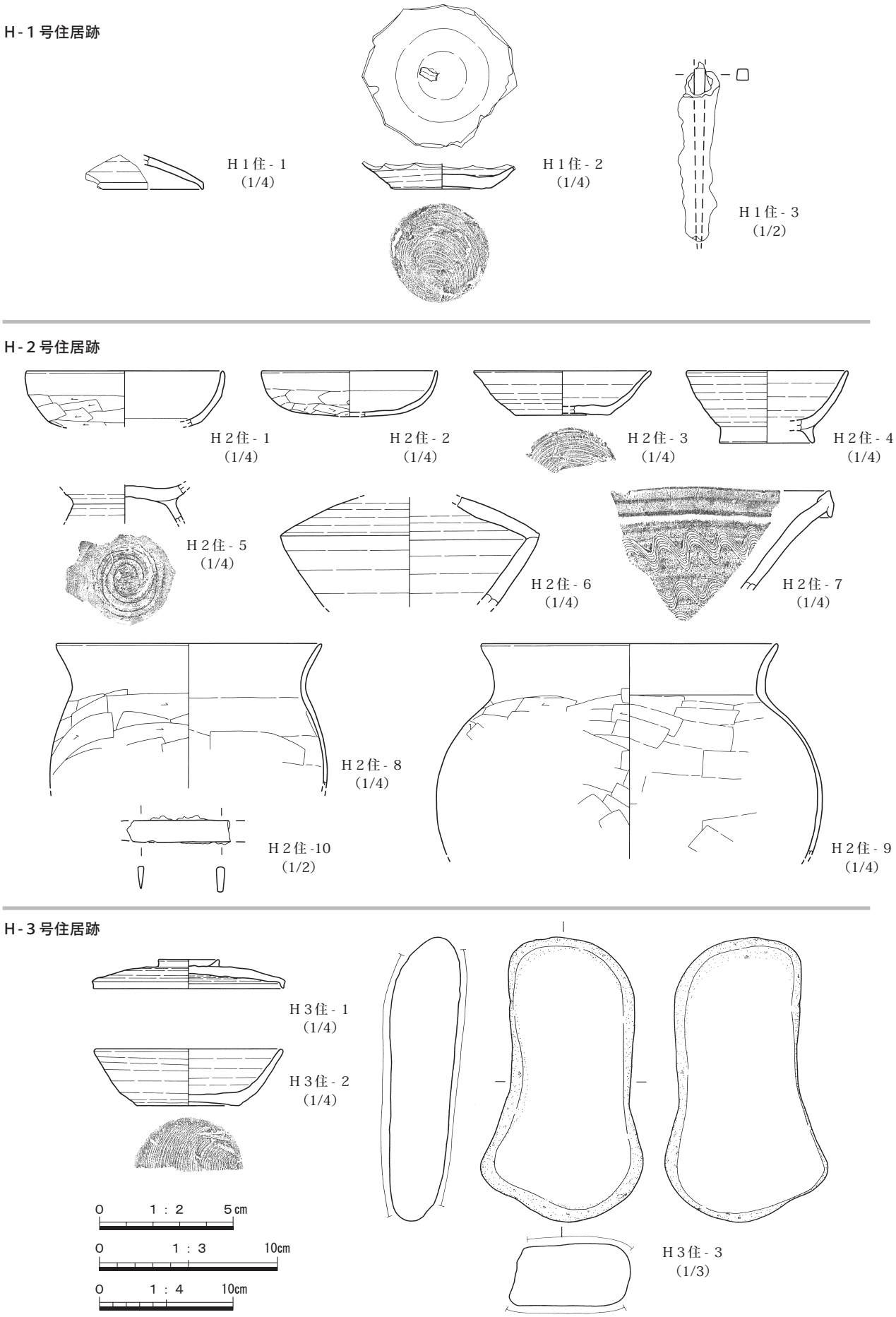

H-1号住居跡
H1住-1
(1/4)
H1住-2
(1/4)
H1住-3
(1/2)
H-2号住居跡
H2住-1
(1/4)
H2住-2
(1/4)
H2住-3
(1/4)
H2住-4
(1/4)
H2住-5
(1/4)
H2住-6
(1/4)
H2住-7
(1/4)
H2住-8
(1/4)
H2住-10
(1/2)
H2住-9
(1/4)
H-3号住居跡
H3住-1
(1/4)
H3住-2
(1/4)
H3住-3
(1/3)
0 1:2 5cm
0 1:3 10cm
0 1:4 10cm

Fig.10　出土遺物 (1)

遺構外出土遺物

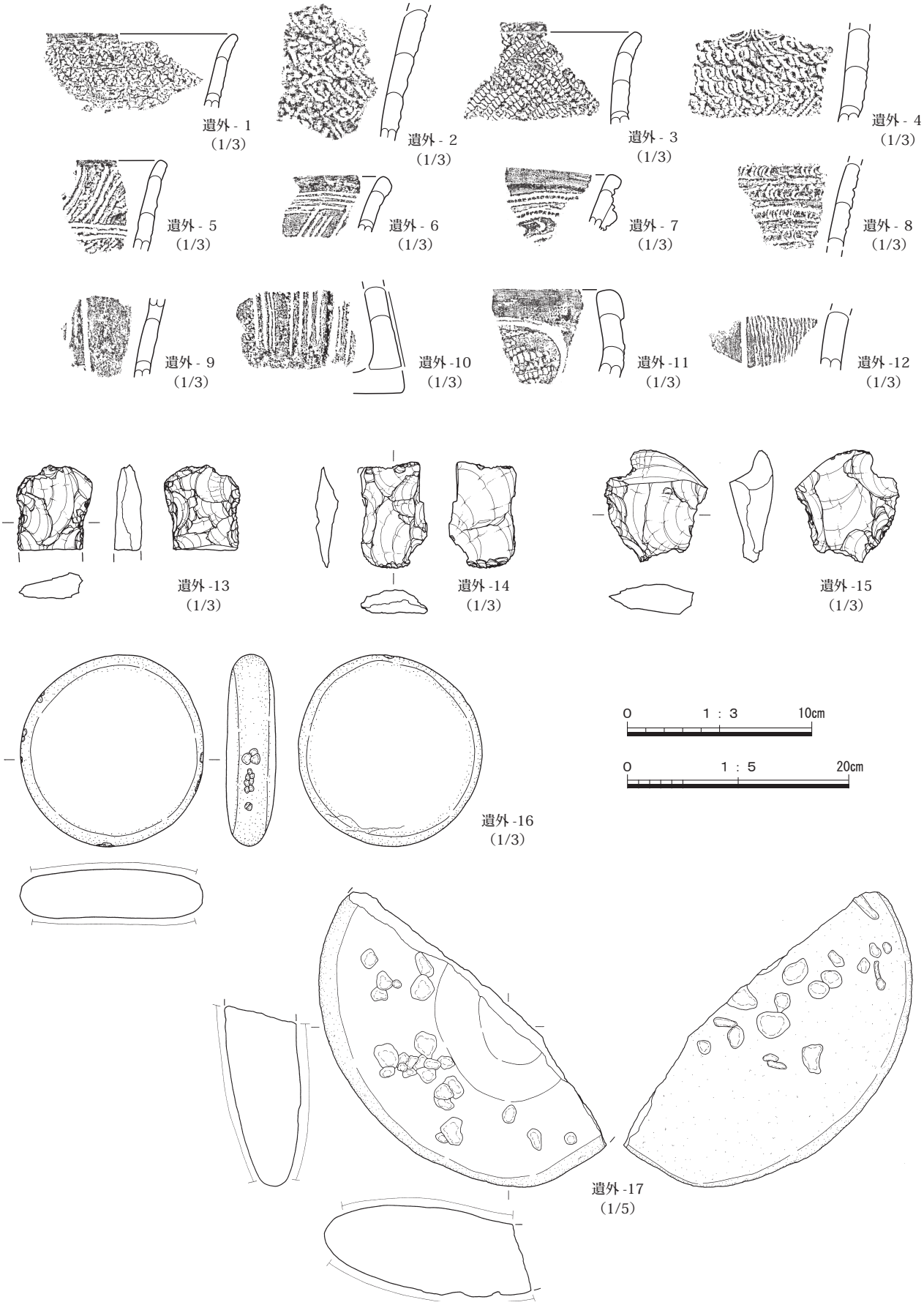


Fig. 11　出土遺物 (2)

Tab. 3　出土遺物集計表

遺物種別\出土位置	Ｈ－１号住居跡		Ｈ－２号住居跡		Ｈ－３号住居跡		Ｈ－４号住居跡		Ｄ－１号土坑		遺 構 外	
	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)
土師器	104	750.0	341	2,140.4	79	600.0	13	60.0	3	20.0	1	9.6
須恵器	20	650.0	109	3,031.8	9	220.0	—	—	—	—	3	118.2
粘土塊	—	—	—	—	—	—	3	8.6	—	—	—	—
陶磁器	—	—	2	13.5	—	—	—	—	—	—	—	—
石器類・礫	1	5,000.0	11	768.5	4	100.0	1	650.0	—	—	—	—
薦編石	5	3,050.0	1	850.0	2	1,500.0	17	8,870.0	—	—	1	250.0
鉄製品	1	17.5	2	46.3	—	—	—	—	—	—	—	—
縄文土器	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	63	1,000.0
縄文石器類・礫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	17	4,607.7

Tab. 4　出土遺物観察表 (1)

Ｈ－１号住居跡

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備　考
1	須恵器 蓋	—	①還元焔　②灰　③白色粒・黒色粒　④体～口縁部片	外面：轆轤成形。体部回転篦ケズリ。 内面：轆轤整形。	
2	須恵器 坏	底径　7.5	①還元焔　②灰　③白色粒・黒色粒　④体～底部片	外面：轆轤成形。底部回転糸切り。 内面：轆轤整形。	意図的に縁辺が打ち欠かれたもの
番号	器　種		法量 (cm)、成・整形技法の特徴		備　考
3	鉄製品	不明	残存長 6.7　重さ 16.90　棒状、断面方形		

Ｈ－２号住居跡

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備　考
1	土師器 坏	口径 (14.6)	①酸化焔　②にぶい褐 ③赤褐色粒・黒色粒 ④口縁～体部 1/2	外面：口縁部横ナデ。体～底部篦ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	
2	土師器 坏	口径 (13.0) 器高 (3.4)	①酸化焔　②にぶい褐 ③赤褐色粒・黒色粒 ④口縁～底部 1/3	外面：口縁部横ナデ。体～底部篦ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	
3	須恵器 坏	口径 (12.2) 底径 (7.0)	①還元焔　②黄灰 ③白色粒・黒色粒 ④口縁～底部 1/3	外面：轆轤成形。底部回転糸切り。 内面：轆轤整形。	
4	須恵器 碗	口径 (11.8) 底径 (7.0)	①還元焔　②灰白 ③白色粒・黒色粒 ④口縁～体部上位 1/4	外面：轆轤成形。底部回転糸切り。 内面：轆轤整形。	
5	須恵器 碗	—	①還元焔　②灰黄 ③白色粒・黒色粒 ④底部片	外面：轆轤成形。底部回転ナデ。高台貼付。 内面：轆轤整形。	
6	須恵器 長頸壺	—	①還元焔　②灰 ③白色粒・黒色粒 ④体部 1/4	外面：轆轤成形。体部上位に自然釉顕著。 内面：轆轤整形。	
7	須恵器 甕	—	①還元焔　②灰 ③白色粒・黒色粒 ④口縁～頸部片	外面：口縁部横ナデ後 波状文。 内面：口縁部横ナデ。	
8	土師器 甕	口径 (22.0)	①酸化焔　②明赤褐 ③赤褐色粒・黒色粒 ④口縁～体部 1/3	外面：口縁部横ナデ。体部篦ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。	
9	土師器 甕	口径 (19.6)	①酸化焔　②明赤褐 ③赤褐色粒・黒色粒 ④口縁～体部 1/3	外面：口縁部横ナデ。体部篦ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。	
番号	器　種		法量 (cm)、成・整形技法の特徴		備　考
10	鉄製品	刀子	残存長 3.9　幅 0.8　厚さ 0.2 ～ 0.3　重さ 3.15		

Ｈ－３号住居跡

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備　考
1	須恵器 蓋	口径 (14.2) つまみ径 (4.6)	①還元焔　②灰　③白色粒・黒色粒　④体～口縁部片	外面：轆轤成形。つまみ貼付。 内面：轆轤整形。返り貼付。	
2	須恵器 坏	口径 (14.0) 器高　4.2 底径 (7.6)	①還元焔　②灰黄 ③白色粒・黒色粒 ④口縁～底部 1/2	外面：轆轤成形。底部回転糸切り。 内面：轆轤整形。	
番号	器　種		法量 (cm・g)、成・整形技法の特徴		備　考
3	石　器	磨石または砥石	長さ 15.9　幅 9.0　厚さ 3.9　重さ 790.8　　安山岩。不整形。扁平礫の表・裏面に磨耗痕。		

Tab. 5　出土遺物観察表 (2)

遺構外出土遺物

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備　考
1	縄文土器 深 鉢	―	①普通　②にぶい黄褐　③白色粒・繊維　④口縁部片	多段の結節文を伴う単節縄文ＬＲ。	前期中葉 二ッ木～関山Ⅰ式
2	縄文土器 深 鉢	―	①普通　②にぶい黄褐　③白色粒・チャート・繊維　④胴部片	重畳する結節文。原体は２本のＬ。	前期中葉 二ッ木～関山Ⅰ式
3	縄文土器 深 鉢	―	①普通　②にぶい黄橙　③白色粒・繊維　④口縁部片	０段多条の原体による羽状縄文。内面横位ナデ。	前期中葉
4	縄文土器 深 鉢	―	①普通　②にぶい黄褐　③白色粒・チャート・繊維　④胴部片	コンパス文。２種の原体によるループ文。上は単節のＲＬ、下はＬＲ。	前期中葉 関山Ⅱ式
5	縄文土器 深 鉢	―	①普通　②にぶい黄褐　③白色粒・チャート・繊維　④口縁部片	半截竹管状工具による沈線文。地文に斜行縄文。	前期中葉 関山Ⅱ式
6	縄文土器 深 鉢	―	①普通　②明赤褐　③白色粒・黒色粒　④口縁部片	櫛歯状工具による沈線文。内面横位ナデ。	前期後葉 諸磯ａ式
7	縄文土器 深 鉢	―	①普通　②にぶい黄褐　③白色粒・黒色粒　④口縁部片	小波状口縁。横位の連続爪形文。逆Ｃ字状の刺突を伴う隆帯。内面ナデ。	前期後葉 諸磯ａ式
8	縄文土器 深 鉢	―	①普通　②にぶい褐　③白色粒・黒色粒　④胴部片	横位の連続爪形文。内面ナデ。	前期後葉 諸磯ｂ式
9	縄文土器 深 鉢	―	①普通　②にぶい褐　③白色粒・雲母　④胴部片	縦位の低い隆帯および沈線。	中期初頭 五領ヶ台式
10	縄文土器 深 鉢	―	①普通　②にぶい褐　③白色粒・雲母　④胴～底部片	縦位隆帯。半截竹管状工具による縦位集合沈線。	中期初頭 五領ヶ台式
11	縄文土器 深 鉢	―	①普通　②にぶい褐　③白色粒・雲母　④口縁部片	口縁部文様帯の枠状区画内に枠状区画内に単節縄文ＬＲ。	中期後葉 加曽利ＥⅢ式
12	縄文土器 深 鉢	―	①普通　②にぶい黄橙　③白色粒・赤色粒・黒色粒　④口縁部片	縦位沈線。縦位回転押捺による撚糸文Ｌ。	中期後葉
番号	器　種		法量（cm・g）、成・整形技法の特徴		備　考
13	石 器	打製石斧	長さ〈4.6〉　幅 4.0　厚さ 1.5　重さ 28.6　　頁岩。短冊形。中央～刃部欠損。		
14	石 器	スクレイパー	長さ 5.7　幅〈3.6〉　厚さ 1.3　重さ 22.8　　頁岩。短冊形。中央～刃部欠損。剥片の縁辺部に片面加工が施され、上・下端部に微細剥離痕が認められる。		
15	石 器	スクレイパー	長さ 6.0　幅 5.5　厚さ 2.3　重さ 56.2　　頁岩。剥片の二側縁に半両面加工を施し刃部とする。裏面上部に微細剥離痕。		
16	石 器	磨石	長さ 10.3　幅 9.8　厚さ 2.7　重さ 442.5　　砂岩。扁平礫の表・裏面に磨耗痕。周縁の一部に敲打痕。		
17	石 器	石皿	長さ〈26.3〉　幅〈25.7〉　厚さ 8.2　重さ 3,900.0　　安山岩。大型礫を素材とする。皿面は浅く窪み、部分的に凹穴。裏面は全体に磨耗し、中央付近に凹穴。欠損品。		

Ⅴ　ま と め

１．竪穴住居跡の年代と特徴

今回の調査で発見された４軒の竪穴住居跡は、７世紀から８世紀代にかけて構築･使用されたものとみられる。Ｈ－１号とＨ－２号住居跡は重複しており、Ｈ－１号が新しく、Ｈ－２号の覆土を掘り返してつくられている。この２軒のあり方、および出土遺物が示す年代から、本遺跡の集落の時期は、少なくとも７世紀代（古墳時代終末期）と８世紀代（奈良時代）の新旧２期に大別される。Ｈ－３号住は､床面付近より見つかった須恵器（碗と蓋）の形態を根拠とし、新期の８世紀代に属すると考えられる。Ｈ－４号については、床面付近はもとより覆土中の遺物が少なく、時期が判然としない。

本遺跡の各住居跡に通じる特徴は以下のとおりである。平面おおむね方形を呈する住居跡のカドの丸みが通例より大きい。Ｈ－２号は短軸の奥付近にカマドが構築されており、Ｈ－１号をはじめ他の住居跡もそれに類する可能性がある。総じて竪穴の検出深は深く、50 ～ 70cm を測る。また、Ｈ－４号の 17 点を筆頭に、いずれの住居跡においても薦編石の出土をみている。

２．周辺遺跡との対比

横室田中遺跡としては、本調査区の南西にある 1986（昭和 61）年調査地点にて、縄文時代前期の集落跡が検出されている。今回の調査では、当該期の竪穴住居跡こそ見つからなかったが、調査区南端部を中心に、前期

前葉～後葉、中期後葉の土器破片や打製石斧、石皿などの石器が採取され、前回調査と同様、当該期の居住活動の一端を示唆する成果が得られた。また、前述した住居跡４軒の検出により、本遺跡は、同一の台地上に位置する古墳～奈良時代の集落跡として、田中田遺跡、岩之下遺跡に次ぐ事例となった。これらは、上野国分寺・上野国府の造営が始まる画期の前後に相当している。横室地区をはじめ周辺地域の集落の消長は、南で展開される事業といかに連関したものか、あるいは近在する複数の古墳に示されるような旧来の生産基盤を利しての自律的な推移とみるべきものか。今後の調査事例の蓄積と検討の深化をまち、本調査の成果がその一助となることを願ってやまない。

参考文献

富士見村教育委員会　1986 『富士見遺跡群 田中田遺跡 窪谷戸遺跡 見眼遺跡』

富士見村教育委員会　1987『富士見遺跡群 向吹張遺跡 岩之下遺跡 田中遺跡 寄居遺跡』

富士見村教育委員会　1991 『富士見地区遺跡群 陣場・庄司原古墳群』

富士見村教育委員会　2006『時沢宮東遺跡』群馬県勢多郡富士見村教育委員会

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2009『上細井北遺跡群 No.１』

抄　録

フリガナ	ヨコムロタナカイセキナンバーニ
書名	横室田中遺跡 No.２
副書名	宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
編集者名	福田貫之　和久拓照
編集機関	有限会社毛野考古学研究所
編集機関所在地	〒379－2146　群馬県前橋市公田町 1002 番地１　℡ 027－265－1804
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371－0853　群馬県前橋市総社町３－11－４　℡ 027－280－6511
発行年月日	西暦 2014 年７月 31 日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（しょざいち）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
横室田中遺跡 No.２（よこむろたなかいせき なんばーに）	群馬県前橋市富士見町横室字田中 667（ぐんまけんまえばししふじみまち よこむろあざたなか）	10201	90027	36°44′78″	139°06′32″	2014.03.17 ～ 2014.03.28	140 ㎡	宅地造成工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
横室田中遺跡 No.２	集落	奈良 平安	竪穴住居跡 土坑	４軒 １基	土師器 須恵器	

横室田中遺跡 No.２

宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成 26 年７月 24 日印刷
平成 26 年７月 31 日発行

編集 / 有限会社毛野考古学研究所

発行 / 前橋市教育委員会
前橋市総社町３－ 11 －４
℡ 027 － 280 － 6511

印刷 / 朝日印刷工業株式会社